



「わっと」は当協議会の愛称です。
人権ってなに？の「What」と人権の輪が「わっと」
広がってほしい願いが込められています。

箕面市人権啓発推進協議会

ニュースレターVOL11

2014年6月発行

〒562-0014 大阪府箕面市萱野1-19-4 箕面市萱野中央人権文化センター内

TEL / FAX 072-722-2470

E-mail jinken-jimu-minoh@silk.ocn.ne.jp

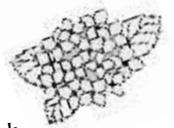
<http://minohjinkenkyou.rakurakuhp.net/>



=2014年(平成26年)度の総会を終えて=

人権の風をみのおから

箕面市人権啓発推進協議会
会長 仲野 公



引き続き
よろしく申し上げます

箕面の山も日一日と緑も深まり「目に青葉、山時鳥、初鰹」こうした句がぴったりの素晴らしい5月末日、箕面市萱野中央人権文化センター「らいとぴあ 21」において開催した 2014 年度の定期総会は役員改選をはじめ事務局体制の強化など提案された報告事項及び諸議案は全て承認、可決されました。

昨年は箕面市にとりましては人権宣言が採択されて 20 年、人権のまち条例が制定されて 10 年という節目の年でありましたので、箕面市と共催して被差別地域で生まれ育った人、在日外国人、心や身体にハンディを持つ人達の体験談や児童虐待、DV、HIV 感染者を支援する人などいろいろな立場や経験、専門的な知識を有する弁護士さんなどから聞き取りをした周年記念リーフレット及び人権協独自の記念冊子「みのお 21 人のものがたり」を発行し人権宣言や条例の持つ意味を広く啓発いたしました。

また、東日本大震災から3年目を迎えた昨年の秋に有志により被災地訪問し現地での生の声を聞き交流をした被災地義援活動事業報告、同和や障害者、在日外国人、男女協働参画それぞれの各啓発研究部会及び各小学校地区協議会の活動報告がありました。

そして 2014 年度は独立した事務所スペースと事務局長の常駐化など体制の強化を図るとともに、昨年に引き続いて「東日本大震災を記憶し語り続ける」ための被災地訪問による義援活動、各種団体の人権研修への講師の派遣やコーディネートを行うなど人権啓発活動の一層の活性化、さらに関係団体との連携を深め、文字通り「人権の市民応援団」として活動してまいりたいと考えています。

私は芝寅勇前会長からバトンタッチを受け多くの市民と仲間の皆さんに支えられ2期4年間、務めさせていただきましたが人権尊重の明るいまちづくりに向け引き続き精進してまいる所存ですのでよろしくご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

総会に引き続いての人権啓発講演会は在日韓国人として日本で育ち、在日を誇りとして生きてこられました在日外国人問題啓発研究部会長の高桂子さんを講師としてお願いし「人は違って当たり前」と題して前田新事務局長との掛け合いで、これまで生きてこられた体験や思いをお話いただきました。

参加者からはチマチョコリ姿で自分の生き様について信念をもって話されたことに感銘し、人はそれぞれの環境や立場の違いはあるが親子、家族、人間関係が大切であることが良く分かったなどの発言がありました。

複雑多様化する現代社会におきまして、外国人によるトランクルーム殺傷事件をはじめ児童虐待、DV、ストーカーによる殺傷など尊い人命を奪う人権侵害の事件が発生している今日、私たちは何をすべきなのか人権の視点から考える良い機会となった総会、講演であったかと思えます。



新たな気持ちで 人権協活動を進めます

人権協事務局長

ヒューマンネットワーク 21 代表 前田 功

箕面市人権啓発推進協議会の定期総会が去る5月31日に行われ、あたらしく人権協の事務局長に選出されました前田(TOM)です。これからも前任者の河野さん同様よろしくお願いいたします。

私はこの3月まで、長い間箕面市役所で働いており、人権部門はもとより、福祉・生涯学習・まちづくり部門で様々な仕事を行ってきました。その中でも特に人権文化に関わる仕事は「らいとぴあ 21」あるいは本庁と役所人生のその大半を占めていました。

また、自分が北芝という被差別部落に生まれ育ち多くの差別を体感してきておりましたので、部落問題や障害者問題・在日の人たちのことなどすべての人権侵害に対して多くの時間をかけて取り組んできました。そういう意味では人権協の活動は自分の今後のライフワークにもなろうかと思えます。どうぞ今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

さて、今年の人権協活動の大きな柱は、第1に「東日本の大震災を決して忘れない」です。昨年人権協として21名で東北の各地域を回り、自分たちで実際の被害状況を見ること、聞くことを行ってきました。特に、高齢者や障害を持っている方、子ども、妊娠している方の被災状況は言葉もありませんでした。本年度も人権協内に呼びかけて10月頃には再度被災地を訪れたいと思います。

第2に「人権啓発活動の充実」です。人権協内には、ヒューマンネットワーク 21 という人権研修や講座の講師やコーディネーターができる人材バンクが発足しています。今後は各種研修や講演会に積極的に活用をお願いしたいのです。



また人権啓発冊子「みのおの21人のものがたり」を本年3月に発行し、すでに多くの方々に読んでもらっていますが、この冊子の活用をもっと広めていきたいと思っています。箕面の中で一人で悩んでいる方や相談するところがない方に読んでほしいと願っています。



また、みのお市民人権フォーラムの成功に向け、人権協は持っている力をフル回転させます。

啓発は行う側と受ける側とに分けがちですが、誰でも人権啓発の送り手となり得ることができるのです。自分の体験や経験、親や友達にかけてもらったその一言で救われたり楽になったことがあります。その体験を言葉にまとめ多くの人に「ヒューマンメッセージ～いのちのことば～」として届けるという事業を創設いたします。

第3に「人権協の組織活動の強化」です。事務局員を3名体制にし、常に2名が出務することで、各部会や地区協に対する相談体制が組めるので、もっといねいな組織運営が可能となります。

以上のような活動の基本を持ちつつ今後も日常的に人権協の取り組みを行ってまいります。



東日本大震災を記憶し語り続けるために
再度、被災地を訪問し交流しよう！



昨年10月19日～21日、総勢21名で福島県南相馬市～宮城県気仙沼市を訪れました。今年も同じ時期に東北を訪れ、被災された方たちと語り合い、交流を深める被災地義援活動事業を実施します。行程や具体的な訪問先、費用、募集人数など、詳細が決まりましたらお知らせしますので、ぜひご参加ください。

「いろはかるた」を作ります!

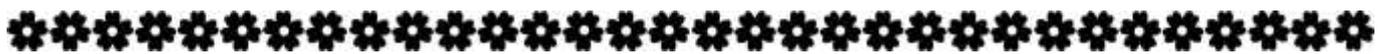
男女協働参画啓発研究部会長 森 幸子

尾澤前部会長が他市に転出され、その後を引き継ぐことになりました。事務局員の仕事をしながら部会長を務めることで、人権協の皆様方に「男女協働参画」の視点で人権を考える機会をたくさん持ってもらえるようにしたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

さて、現在の構成メンバーでの部会活動がスタートしたのは5年前の2009年(平成21年)でした。私たちがいつも意識しているのは、新聞やテレビで流れるニュースや社会の出来事、あるいは日々の暮らしを「男女協働参画」の視点でとらえることで

す。性役割の中に男性優位・女性劣位という上下関係が埋め込まれていないかを考え、両性間の格差をなくすためにできることは何かを考えたりします。「父親だから、母親だから」「妻はこう、夫はこう」「男の子のくせに、女の子のくせに」など性別で分けて語られたときの悔しい、悲しい気持ちや問題意識を共有しあったりもします。

そうした活動のなかから、今年度はいろはかるたを作ろうという提案が生まれました。学校や職場、地域、家庭などの生活シーンで、就職、結婚・離婚、出産・育児、家事、介護などのライフステージで「これはヘン?」と思ったこと、不平等と感じたこと、なるほどと納得がいったことなどを、まず言葉にしてみようと思います。そして、このかるたを使ってみたいと言ってもらえるようなセンスのいい「いろはかるた」を作りたいと思います。



報告 人権啓発講演会の報告

タイトル ~在日を誇りに~

人は違って当たり前

日時 5月31日(土)午後4時~5時35分
場所 箕面市立萱野中央人権文化センター
講師 高桂子さん

(人権協在日外国人問題啓発研究部会)

進行 前田功さん

(人権協事務局長)

参加者 51名



ネット社会に浸透し拡大を続けていたヘイトスピーチ(憎悪発言)は、2013年に入ると現実社会にもあふれ出し、組織的にヘイトクライム(憎悪犯罪)を繰り返しています。このことは決して許してはならないし、日本に住む多くの「在日」(在日韓国人・朝鮮人)の人々が今も通称名(日本名)で暮らしている事実も忘れてはならないことです。

高桂さんはカムアウトしたことにより楽になったのではないかと思います。これからも「在日」を獲得し続ける高さんが生きやすいと感じられる地域社会を私たちは築いていかなければなりません。(文責 森)

<アンケートより(一部紹介)>

- ・在日の方の思いを聴かせえてもらえてよかった。
- ・京都朝鮮学校に対する「在特会」の言葉の暴力をYou tubeで見たりすると、彼らは極端かもしれないが、その背景には現在の日本の精神風土があると思います。在日をしっかり考えることはその風土へのカウンターパンチになるのではないかと。
- ・離婚、いじめ、不登校などいろいろ体験されている。在日だから在日問題というだけでなく人権問題は組み分け、色分けできないことだと改めて感じた。
- ・ご自身のオモニの話をされたところがとても心に残った。
- ・学校現場にいるルーツのある子どもたちが元気の出る取り組みをしていきたいと思っています。
- ・20代でも「パッチギ」並みの経験しているウトロ出身のキムチャンヘン氏の話を聴いてみたい。
- ・「私はわたしでいいやん」すべてのことがこれにつきる。
- ・外国籍であるがゆえに困ったという話が聞きたかった。





『チョコレートドーナツ』



知人にメールで急遽誘われて二つ返事で劇場に向かう。知人にこの映画を紹介した人曰く「涙がこぼれてバスタオルでは間に合わない」。

1970年代にアメリカで実際にあった話がこの映画の脚本の基になっている。

女装してクラブで唄い、歌手になる夢を抱くルディ。ゲイを隠している弁護士のポールが恋仲になる。ひょんなことからダウン症の14歳の少年マルコとの暮らしが始まる。二人はまるで我が子のようにマルコを育てる。医者連れて行き、学校にも入学させ、マルコの成長ぶりに一喜一憂する。

しかし、当時のアメリカはまだまだ同性愛に対する偏見が根強く、同性愛者が少年を養育することを許さず、彼らからマルコを引き離してしまう。

ゲイであることを隠さず、社会の偏見と真正面から闘うルディ。最初はカミングアウトに消極的だったポールもマルコとの3人の暮らしを守るためにルディとともに闘い始める。

彼らの困難な法廷闘争に勝利の光が見え始めたとき、麻薬中毒で服役していたマルコの実の母親が仮出所し、彼らに対するマルコの養育同意書を覆し、マルコは実の母親の元に帰される。そしてマルコは2日間街をさまよった挙げ句に死んでしまう。

歌手としてチャンスをつかみかけたルディが映画の終盤近くでボブ・ディランの名曲「I Shall Be Released」をせつせつと唄う。

「私の光がやってくるのが見える。西から東に輝きながらもうすぐ今日にでも私は解放される。」

必死に最善の努力をしたにもかかわらず、家族同様だったマルコを失い、絶望にうちひしがれても、「I Shall Be Released」と歌うルディの姿がこの映画のメッセージなのかもしれない。

(在日外国人問題啓発研究部会 K)

今後の上映予定

宝塚シネ・ピピア 7月19日(土)～



ヒューマンネットワーク 21 は、各種人権研修や学習会等の企画・立案をサポートします。企業や行政の職員、教育現場や保育現場の職員、保護者、並びに市民グループやNPO等の幅広い方を対象に人権研修を実施される時は、まず人権協事務局にご相談ください。

また、部落問題や在日外国人問題、障害者市民問題、男女協働参画問題をはじめとした、さまざまな人権課題やテーマに対する講師、ファシリテーターの役割を担います。

人権の街“みのお”づくりの主体である市民の応援団として「ヒューマンネットワーク 21」をご活用ください。

ヒューマンネットワーク21とは?

「ヒューマンネットワーク 21」とは、様々な人権課題の解決に向けて、学校教育や就学前保育・教育の実践、行政における人権施策や各種NPO活動等を通じて人権確立に向けた取り組みを行い、豊富で専門的な知識や経験を有している個人、並びにいわゆる「当事者市民」として種々の活動を行っている個人を、箕面市人権啓発推進協議会が呼びかけ組織し、企業や教育関係、一般社会で実施される人権問題に関する各種研修・啓発活動の講師、ファシリテーターとして派遣するために登録された人たちのグループの総称です。

編集後記

人権協の事務所が、らいとぴあ 21 の2階に移って2か月経ちました。こぢんまりと落ち着いたスペースで仕事もはかどります。また、事務局長が専従として常に事務所にいるというのが、何よりも心強く頼もしい限りです。共用スペース「ひゅーまん」のすぐ隣なので、ここに登録して活動されている市民グループのサポートもしやすくなりました。事務所はいつもオープンです。いつでも、どなたでも気軽にお立ち寄りください。お待ちしております。(M)